



日本初の本格的ワイン醸造場

2008年4月の文化審議会答申を経て、2008年6月9日にシャトーカミヤ旧醸造場施設3棟が「最初期の本格的ワイン醸造施設」として、文部科学大臣から国の重要文化財に指定されました。指定されたのは、「事務室」（現：本館）、「醗酵室」（現：神谷傳兵衛記念館）、「貯蔵庫」（現：レストラン）の旧醸造場施設3棟。明治中期の煉瓦造建築として歴史的価値の高さと、当時の醸造方式を理解するうえで産業技術史における価値が高いという2点が評価されました。

牛久シャトーの歴史



明治31年（1898年）、茨城県稲敷郡岡田村（現：牛久市）に神谷傳兵衛が葡萄栽培の適地として見出し、南北に長い120町歩（約120ha）もの広大な土地を購入し、神谷葡萄園を開きました。その後、明治36年（1903年）に、神谷葡萄園の北寄りの一角に牛久醸造場として建設したのが、牛久シャトーです。

当時は牛久駅まで鉄路が敷設されており、運搬をしていました。

その後、幾度もの増改築を経て、当時の建物は旧事務室（現：本館）、旧醗酵室（現：神谷傳兵衛記念館）、旧貯蔵庫（レストラン）が現存しています。

神谷傳兵衛は、数多くの名士とも交流があり、政治家では樺本武揚、板垣退助、土方久元、松方正義、軍人では大山巖、児玉源太郎、西郷従道など多くの偉人たちが牛久シャトーを訪れました。

牛久シャトー内には、明治時代中期の本格的な煉瓦造のワイン醸造場の主要部がほぼ完全に保存されており、歴史的な価値が高く評価されています。特に、旧醗酵室は各階ごとに配された設備構成等から、当時のワイン醸造工程を知るうえで産業技術史においても重要な施設となっています。さらに、旧事務室は、原料となる葡萄の栽培から瓶詰めまでを一貫生産する醸造場だけに認められる称号「シャトー」を名乗るのに相応しい意匠を有し、明治時代中期の煉瓦造建築の水準を計るうえでも貴重な建造物です。

- 2007年（平成19年）11月「近代化産業遺産」認定
- 2008年（平成20年）6月「国の重要文化財」指定
- 2020年（令和2年）6月「日本遺産」認定

5 オエノン ミュージアム



オエノングループの歴史的資料やノベルティ、商品などを幅広く展示しています。

開館時間
10:00～16:00
— 入館無料 —



1 本館

国指定 重要文化財 旧事務室



1903年（明治36年）に建設された牛久シャトーのシンボリックな建物です。

※本館の一般公開は実施しておりません。

2 レストラン

国指定 重要文化財 旧貯蔵庫



100年以上の歴史を誇る煉瓦造りのワイン貯蔵庫を改装したレストラン。ここでしか味わえない料理をお楽しみいただけます。

営業時間
ランチタイム 11:30～15:00
（ラストオーダー 14:00）
ディナータイム 17:30～21:00
（ラストオーダー 20:00）
— 定休日 月曜日 —

3 神谷傳兵衛記念館

国指定 重要文化財 旧醗酵室



神谷傳兵衛の足跡を、当時のワイン造りの資料とともにご紹介しています。

開館時間
10:00～16:00
— 入館無料 —

4 ショップ



牛久シャトー オリジナル商品をはじめ、地元の名産品を販売しています。

営業時間
10:00～18:00
— 定休日 月曜日 —